

05.フィレンツェ：シニョーリア広場



アーチや柱の装飾、石工の建築物が建ち並ぶフィレンツェの街。古典古代主義が基盤となっているルネサンス様式は現在もその精神と共に都市を形成している。

中心街を歩くと気づくのが、信号がないことである。あたりには路上駐車が多く見られ、けして自動車の通行量が少ないわけではないようだ。私の訪れたシニョーリア広場では、石畳の道を歩行者、自転車、馬車、そして自動車が行き来しており、フィレンツェならではの空間を感じ取ることができた。広場には彫刻が点々と配置されており、ダヴィンチやミケランジェロを生んだルネサンス(文芸活動)の盛んさを我々に伝えてくる。調べると14世紀頃には、当時、指導者的な立場にあったメディチ家により、建物の配色など都市計画がすでに行われていたようだ。

今回、私は日本とイタリアの建築、都市計画の比較を目的に研修に臨んだ。歴史継承と動線、配色計画。日本とは全く違うフィレンツェの都市を体験したことで、改めて、日本建築の歴史に興味を持った。その中でも、守り受け継いでいくべき日本の建築様式があるのかもしれない。

(田向 俊己)